情報公開用文書

幹細胞型肝癌の同定と診断法の開発

研究の意義・目的

原発性肝癌（肝癌）は、肝臓から発生する悪性腫瘍ですが、その性質は千差万別と言われています。すなわち、大きくなるまでに時間がかかる腫瘍がある反面、急速に大きくなったり、他の臓器に転移したりするものもあります。また、緩やかに増大していた腫瘍が、突然に広がったり、転移するような場合もあります。もし、手術やラジオ波焼灼術前に、このような腫瘍の性質が予測できればよいのですが、現在ではこのような予測は難しいのが現状です。一方、幹細胞と呼ばれる成熟した肝細胞になる前の段階の細胞がありますが、最近、この幹細胞に類似した性質をもつ腫瘍は、急に大きくなったり、転移を起こす可能性が高いことが解ってきました。そこで、この研究では、手術や生検などで得られた肝癌の組織や、血液を用い、多くの遺伝子やタンパク質の変化を調べ、最終的には、幹細胞型肝癌を非侵襲的に診断する方法を開発することを目的としています。

対象

以前に当院で肝癌の診断で肝切除、肝生検を受け、その際に得られた組織の残余や血液を研究材料として利用することを承諾された方。

研究方法

本研究では、肝癌組織、非癌部肝組織DNA、RNA、たんぱく質を抽出し、それらの状態から、肝癌が幹細胞の性質に近いかどうかを予測します。また、血液を調べ、肝癌の状態を反映するDNA、RNA、たんぱく質が血液内にも存在するかどうかを検査します。さらに、診療記録より血液検査のデータ、再発までの期間や予後を調査します（以下の項目を含みます）。

1) 背景
   性別、年齢、身長、体重、糖尿病の有無、高血圧の有無、高脂血症の有無、飲酒歴、喫煙歴
2) 検査項目
   i. 血球算定検査： 血小板数
   ii. 臨床化学検査（肝機能・腎機能）：アルブミン、AST、ALT、総ビリルビン、BUN、Cre、GGT、ALP、T-Chol、TG、UA
   iii. 凝固検査：プロトロンビン時間（%）
   iV. 腫瘍マーカー（AFP、AFP-L３、PIVKA-II、CEA、CA１９－９
3) 選択された肝癌の治療法
4) 肝癌と周囲肝の病理組織所見
5) 腫瘍のサイズ、腫瘍の数、形態、血管への浸潤、転移の有無

個人情報の取扱い

データの入力に際しては、新たに設定した識別番号が用いられ、個人が特定されるような情報の入力はされません。また、識別番号と診療記録の対応表が他施設に渡ることはありません。この解析結果は、個人が特定されない形式で、論文や学会等で発表されることがあります。

研究機関名

研究施設：

近畿大学医学部消化器内科

研究期間

近畿大学医学部倫理委員会承認後 10 年間

本研究に情報を提供したくない場合は、下記事務局までお申し出下さい。それにより、今後の診療等に不利益が生じることはありません。

研究事務局および問い合わせ先

近畿大学医学部内科学教室・消化器内科部門
西田　直生志
〒589-8511　大阪府大阪狭山市大野東377-2
TEL: 072-366-0221（内線：3525）